

不思議や謎に挑戦する子どもたち —これからの保育ができること—

子どもはそもそも不思議なことや謎めいたことが大好きです。そうしたものに当たると、「いったい何だろう?」「探してみよう!」と好奇心や探究心を大いに働かせます。それを見ていたまわりの子どもや大人も、ついつられて「なんだ?どうした?」とついていきます。

そうして、知らず知らずのうちに遊びの世界が広がって……。こうした遊びの広がり方は、まさに理想的でしょうが、現実にはなかなかうまくいきません。なぜでしょうか。

本シンポジウムでは、不思議や謎に挑戦する子どもの姿を今一度見つめながら、これからの保育ができることについて参加者とともに語りあいたいと思います。

日時：2021年3月14日(日) 13-15時

場所：オンライン (zoom) *上限300名

*参加費無料



話題提供① 富田昌平 (三重大学)

謎めいた神秘的な存在との

出会い体験が子どもにもたらすもの

三重大学教育学部教授。博士(学校教育学)。著書『幼児期における空想世界に対する認識の発達』で、第55回(2019)保育学文献賞受賞。



話題提供② 利根川彰博 (秋草学園短期大学)

子どもにとっての空想と現実

秋草学園短期大学准教授。あんず幼稚園で24年間クラス担任を務める。「共同的な活動としての『劇づくり』における対話」で、第70回(2017)保育学会研究奨励賞(論文部門)受賞。

申込み方法：申込みは右のQRコードからお願い致します(申込み受付開始日は、21年1月20日)。後日、詳細をお送り致します。zoomのアプリ等ご用意ください。

問い合わせ：上田敏文(名古屋市立大学) ueda@hum.nagoya-cu.ac.jp



<https://forms.gle/e1ABNHtUXf2VFZYRA>